教学入門【2】日蓮大聖人と法華経

① 末法の法華経の行者

本文中の空欄に語群から選んで適切な言葉を埋めなさい。

日蓮大聖人は経文どおりの大難を受け、法華経を弘めた（　法華経の行者　）である。

(1)猶多怨嫉・況滅度後

法華経法師品第10には「如来現在（　猶多怨嫉　）・（　況滅度後　）」と説かれる。

この意味は「法華経を説く時には釈尊がいる時代であってもなお怨嫉が多い。ましてや釈尊滅後の時代になればそれ以上の怨嫉がある」ということである。

釈尊滅後に釈尊の時代以上の怨嫉や迫害を受けたのは（　日蓮大聖人　）お一人だけである。

(2)六難九易

現実に迫害が起こるために法華経を弘めることが難しい。

見宝塔品第11では（　六難九易　）を説いて、釈尊滅後の法華経流布の困難さを強調し、菩薩たちに「釈尊滅後に（　A　）と誓いなさい」と勧めた。

六難九易の六難とは釈尊滅後に（　法華経　）を説き、書き、読み、人に説き、意義を問い、受持する6つの行動のことである。

(3)三類の強敵

日蓮大聖人は経文に説かれた通り、（　三類の強敵　）による大難にあわれた。

日蓮大聖人が法華経を身読したことによって、釈尊の言葉が真実であると証明した。何度も法難にあったことで経文に説かれる（　数数見擯出　）を身で読んだことになります。

大聖人ご在世当時の僭聖増上慢の代表格は（　極楽寺良観　）らである。

法華経の行者	釈尊	天台大師	鳩摩羅什	日蓮大聖人	極楽寺良観	親鸞	
猶多怨嫉	況滅度後	六難九易	法華経	三類の強敵	三障四魔	数数見擯出	

本文中のA欄にふさわしいと思われる言葉に〇、違うものに×をつけなさい。

（　〇　）法華経を弘通する

（　×　）仏像を建立する

（　×　）滝行や断食などの苦行を行なう

次の三類の強敵を説明した文章に、カッコ内にふさわしい言葉を埋めなさい。

（　俗衆　）増上慢　法華経の行者を迫害する、仏法に無智な衆生。

（　道門　）増上慢　法華経の行者を迫害する僧侶。

（　僭聖　）増上慢　法華経の行者を迫害する、聖者のように社会的名声を得た高僧や人物。

六難九易の九易の内容を2つ選んで書きなさい。

（　須弥山を他の無数の仏土に投げ置くこと　　）

（　乾いた草を背負って大火の中に入っても焼けないこと　　など　　）

②　上行菩薩

本文中の空欄に語群から選んで適切な言葉を埋めなさい。

（　日蓮大聖人　）だけが法華経を身読した。あわれた大難が（　法華経　）と一致している。
これは大聖人が末法における（　法華経の行者　）であることの証明である。
したがって日蓮大聖人こそが、末法弘通の付嘱を受けた（　上行菩薩　）である。
上行菩薩が釈尊滅後に釈尊に代わって人々を成仏へと導く（　末法の教主　）である。

大聖人は自ら（　日蓮　）と名乗り、法華経の行者として民衆救済の行動を貫かれた。
外用としては、地涌の菩薩の上首である（　上行菩薩　）である。
内証としては、（　久遠元初　）の自受用報身如来である。
日蓮大聖人は、文永８年９月１２日の（　竜口の法難　）の時に、凡夫という迹を開いて、自受用報身如来という本地を凡夫の身のままに開き顕した。これを（　発迹顕本　）という。

日蓮	釈尊	久遠元初	始成正覚	上行菩薩	無辺行菩薩	発迹顕本	末法の教主
像法時代の導師	法華経の行者	法華経	竜口の法難	立正安国論提出	立宗宣言		
日蓮大聖人							

上行菩薩に関する説明として正しいものに○、間違っているものに×をつけなさい。

（　○　）私達が南無妙法蓮華経の御本尊を信じて自身の内なる妙法を開き顕すことは、自身に久遠元初の仏の生命境涯を涌現させることである。

（　○　）久遠元初の仏とは、生命自体が持つ尊厳性をそのまま発揮した仏のことである。

（　×　）万人成仏は、凡夫を超越した偉人による超人的な行動でしか実現できない。

（　×　）上行菩薩とは特別に選ばれた人格者のことであり、歴劫修行でのみ得られる境涯である。

（　○　）日蓮大聖人は法華経文底に秘められた万人成仏の法を南無妙法蓮華経として顕し弘教した。